

## vivo

7 JULY 2007

## CONTENTS

ミト・デラルコ第10回演奏会 .....	1
BACHのための4人 その2	
西山まりえ チェンバロ・リサイタル .....	2
親子のためのオルガン見学会 .....	3
SELF PORTRAIT 初見宗郷 .....	3
最近の公演から .....	4
お知らせ:吉田秀和館長、佐川一信元市長、 水戸市の名誉市民に / MCOのCD新発売 ...	5
インフォメーション .....	6



写真上;西山まりえ 下;ミト・デラルコ

## ミト・デラルコの過去・現在・未来が詰まった演奏会です。

### 7 / 21(土)ミト・デラルコ第10回演奏会

#### 9回の演奏会をふりかえる

1999年に水戸芸術館の専属楽団として歩み始めた弦楽四重奏団、ミト・デラルコ。オリジナル楽器による日本唯一の弦楽四重奏団として誕生したこのグループも、おかげさまで10回目の演奏会を迎えることができました。これも皆様のあたたかいご声援のおかげです。心より、感謝申し上げます。

さて、せっかくの機会ですので、これまでの9回の演奏会を振り返ってみましょう。記念すべき第1回は1999年9月。このときのプログラムはハイドンの弦楽四重奏曲 口短調 作品33の1(以下、特記がない場合はすべて弦楽四重奏曲)、五度、そしてモーツァルトの不協和音でした。演奏会の模様はNHK-FMによって収録され、放送されました。第2回は2000年9月。ハイドン変口長調 作品50の1、100年以上忘れられていたA.ロンベルク 口短調 作品16の2、そしてベートーヴェン 第2番ト長調。第3回は2001年9月で、モーツァルトの二短調K.173 イ長調K.464 変口長調 K.589 を演奏。モーツァルトの生涯の3つの時代を3つの弦楽四重奏曲で描くプログラムでした。2002年4月の第4回には初のゲストとしてギターの福田進一が登場。19世紀ギターを携えた福田進一とポッケリーニのギター五重奏曲を2曲、彼の弦楽四重奏曲も2曲。ファンダンゴにおける鈴木秀美のカスタネットも拍手喝さいでした。なおこの演奏会を最後に第2ヴァイオリンのドミトリー・パディアロフが退団。同年10月の第5回は弦楽三重奏編成にフォルテピアノの小島芳子をむかえ、モーツァルトの弦楽三重奏のためのディヴェルティメント 変ホ長調 K.563の各楽章間にモーツァルトとハイドンのピアノ三重

奏曲楽章やソロをはさんでゆく「18世紀風音楽会」を行いました(小島芳子氏はこの演奏会後の2004年、残念ながらお亡くなりになりました)。2003年12月の第6回からは第2ヴァイオリンに新メンバーのソフィー・ジェントを迎えてハイドン 二長調作品71の2 ト長調作品76の1、モーツァルト ホフマイスター で再始動。2004年9月の第7回はハイドン 二長調 作品20の4 ヘ長調作品77の2、モーツァルト ト長調 K.387。2005年9月の第8回はチェロにエマニュエル・バルサを迎え、ポッケリーニとシューベルトの弦楽五重奏曲。シューベルトは初のロマン派大作でした。そして2006年9月の第9回はフラウト・トラヴェルソの有田正広を迎え、フルート四重奏曲(二長調K.285)と弦楽四重奏曲(狩 および最後のヘ長調 K.590)でモーツァルト生誕250年を祝うプログラム。ドヴィエンヌのフルート四重奏曲も演奏されました。また、これらの演奏会と関連して、この8年間に日本の11箇所のホールで館外公演を行っています。

#### ミト・デラルコ、未来へ

さて、駆け足でこれまで9回の演奏会の歩みを振り返ってまいりましたが、この7月に行われる第10回演奏会は、原点に立ち戻ってゲストなし、弦楽四重奏曲3曲で勝負するプログラムです。この文章の見出しに「ミト・デラルコの過去・現在・未来が詰まった演奏会」と書きましたが、誇張ではありません。「現在」は説明不要ですが、「過去」はなにか。それは1曲目のハイドンの変口長調 作品50の1にあります。もうお気づきだと思いますが、この曲は第2回演奏会でとりあげられた作品です。今回の演奏会プログラムを組むに当たって、メン

バーには「過去とりあげた曲を再演し、今のミト・デラルコの進化を聴いていただく」という思いがありました。そして、これまで演奏してきた作品の中で、全員が一致して挙げたのが、この曲だったのです。1787年に作曲され、真に円熟したハイドンの弦楽四重奏曲のはじまりを告げるこの隠れた傑作。あえて材料を節約し、限られた主題要素からヴァラエティに富んだ音楽をつくりだすハイドンの手腕が冴えています。終楽章には、にやりとさせる仕掛けもありますのでお楽しみに。そして、ミト・デラルコが結成当時から抱いていた「知られざる傑作の発掘」というコンセプト健在なりと感じさせる、ルイージ・トマジーニ(1741~1808)の変口長調 Ko11。トマジーニはエステルハーゼ公の宮廷のヴァイオリニストで、ハイドンの同僚であり、弟子でした。彼の弦楽四重奏曲が演奏される機会はまず日本ではないだけに、ぜひお聴き逃しなく。そして、最後にベートーヴェンの第5番イ長調。ベートーヴェンが取り上げられるのはやはり第2回演奏会以来。ちょうど水戸芸術館では水戸室内管弦楽団第68回定期演奏会でベートーヴェン晩年の超大作弦楽四重奏曲 第13番 変口長調 が弦楽合奏によって演奏されたばかりですが、これは初期の6曲からなる曲集 作品18の一角を飾る作品。モーツァルトのイ長調 K.464に影響された、精妙でしかも若々しい作品です。久々のベートーヴェンへの挑戦は、今後この作曲家を含む19世紀レパートリーへの展開という「未来」を期待させずにはいられません。

10回を祝ってカフェでのワイン・サービスもあるこの演奏会、たくさんの皆様のお越しをお待ちしております!

《矢澤》



ハープを奏く西山まりえ。  
彼女のCDはミュージアムショップ  
「コントロール」で多数発売中!

## バッハと踊る。バッハを歌う。それが西山まりえのチェンバロ。

7 / 14(土) BACHのための4人 その2・Animation(活気) 西山まりえ チェンバロ・リサイタル

「古楽演奏」のその先へ

私たちの心に衝撃と共に新しい風を吹き込んでくれた高橋悠治のピアノに続き、「BACHのための4人」シリーズ第2回に登場するのは、かつて聴いたことがないほど新鮮な感興を与えてくれる話題のチェンバロ奏者、西山まりえです。

チェンバロという楽器に、もし「いにしへの宮廷の雅な感じ」や「荘重で、神秘的な雰囲気」といった印象を持たれているなら、西山まりえのチェンバロを耳にして、驚かれるに違いありません。「チェンバロって、こんなにダイナミックな楽器だったのか?」と。

舞台上に姿を現す彼女は、いつも聴き手の心を武装解除させるチャーミングな笑顔で、たちまちホールを心地よく親密な空気で包んでしまいます。しかし、チェンバロにむかい合うや否や、鬼神と化す!...というオーヴァーかもしれないが、たちまちのうちに楽器と音楽に憑依し、激しく、魅惑的なパフォーマンスをくり広げ、私たちの心をわしづかみにしてしまうのです。その小柄な身体のどこに眠っているのだらうというくらいのエネルギーが放射され、それは生命の鼓動を思わせるリズムとなり、思わず椅子から腰が浮き上がってしまいそうです。一方、ゆるやかでカンタービレな部分は、音楽の構造が見えなくなる一歩手前まで思い切って歌いこまれ、激しい部分との見事な対比を作ります。そして、そこにたくし込まれる大胆な即興の数々。彼女の演奏にかかると、どんな曲でも、二度同じ姿を見せることはありません。常に、その瞬間の生命を生きる喜びにうち震えているのです。

彼女の演奏を聴くと、古典派より前の鍵盤音楽が、こんなにも自由で、弾き手のイマジネーションを羽ばたかせてくれるものだったのか、ということを実感せずにはいられません。たとえば、かつてチェンバロが20世紀に復元された頃に残された、黎明期の大家であるランドフスカのバッハ録音を聴くと、この偉大な音楽家に挑む気迫が、荘重な装いで伝わってきます。あるいは、その後のヴァルヒャ、リヒターらの、息詰まるような緊張感。そして、奏法や楽譜の「読み」に大きな転換をもたらした孤高の大家レオンハルトの、比類ない芸術。その後続くピノック、コープマン、ロスなど、多様な個性の登場を経て、もっとも若い世代である

西山まりえの演奏を聴くと、いにしへの音楽が、なんの違和感もなく、「今、ここ」にある音楽として自然に、自由に鳴り響いていると感じます。彼女は大学までピアノを学んでいましたが、あるとき出会ったチェンバロにより大きな自由を感じ、たちまちのうちにその世界に飛び込んでいったそうです。先人の蓄積してきた演奏の秘法を猛烈な速度で吸収し、それをステップボードとして表現の可能性を大胆に模索していく、新しい世代の特権を、いかに西山まりえは伸び伸びと享受していることでしょうか。その演奏は、日本に先行してヨーロッパの聴き手を驚嘆させています。彼女の演奏によるスペインのチェンバロ曲のCDが、スペインその国で最高の評価を受けたり、彼女が属する3人組の強力グループ「アントネッロ」のCDが、スウェーデンの「BIS」やイタリアの「シンフォニア」といった目利きプロデューサーのいる個性派レーベルから発売されこれまた高く評価されたりしているのが、その何よりの証拠でしょう。私たちは、「古楽演奏」と呼ばれてきたものが、まぎれもなく新しい何かに羽化してゆくその瞬間を、目にしようとしているのです。

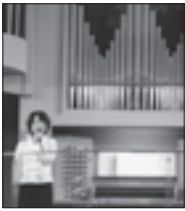
ラテンなバッハ?

さて、今回の「BACHのための4人」に登場するにあたり、西山まりえは実にエキサイティングなプログラムを組んでくれました。高橋悠治のバッハが、「現代からバッハをとらえなおし、その意義を再考し、解体する」ものであったとすれば、これはバッハを「その前の世代からの流れの中でとらえなおそう」というものだと言えましょう。もちろんバッハにはいろんな側面があるわけで、その側面によってまったく異なるバッハ像が浮かび上がるわけですが、西山まりえのプログラムのキーワードはいわば「ラテンなバッハ」。バッハが大いに範としたイタリアの音楽家たち(加えて、スペインの音楽家たち)の生命力あふれる音楽とバッハ作品が組み合わせられます。まずフレスコバルディ、トラバーチ、ピッキらは17世紀初頭のイタリアの作曲家たち。この頃は、ヨーロッパ・クラシック音楽における器楽の揺籃期にあたり、考えられないほど大胆かつ斬新な和声やリズムの試みが追求されます。そのオルガン演奏で何万というローマ市民を熱狂させた姿を髣髴とさせるフレスコバルディ、そして謎の

作曲家ピッキの奔放なファンタジーの飛翔。とにかくこのあたりの音楽は文句なしに面白い。現代のロックやジャズの聴き手にもアピールする、型破りでエキサイティングな音楽です。特にピッキの音楽は、西山まりえをこの時代の音楽に「開眼」させたもので、彼女にとっても特別な思い入れがあるようです。

そして、カベソン、マルティン・イ・コルといった、前後する時代のスペインの音楽が続きます。我々がスペイン音楽と聴いてイメージするあの独特の旋法やリズムの味わいが、すでにふんだんに感じられます。しかもここでは、当時のテーマに基づく西山まりえ自身の即興演奏が聴けるのです!さらに、チラシをご覧くださいと、トラバーチとマルティン・イ・コルで「ハーブ演奏」と書かれていることに気づかれるでしょう。彼女は、中世・ルネサンス時代の古いハーブの名手でもあるのです。同じ「弦をはじく」メカニズムであるとはいえ、タイプの異なる楽器をワン・ステージで自在にこなす柔軟さ。ここまで彼女の音楽の情熱的な面をことさら強調してきましたが、その一方でこれは、自分の演奏する楽器や音楽に対する冷静に批評的な視点があって、はじめて可能なことであることも、また記されねばならないでしょう。

プログラムは、ナポリ・オペラの大家アレッサンドロ・スカルラッティ(膨大な数の鍵盤ソナタで有名なドメニコ・スカルラッティの父)の知られざるチェンバロ曲を経由しつつ、バッハに至ります。選ばれたのは、アルピノーニの主題によるフーガという、イタリアの作曲家からの直接的な影響を感じさせる作品と、イタリア流のトッカータやファンタジアをまさにバッハにしかできないやり方で巨大な規模に発展させた劇的な半音階的幻想曲とフーガ。こうして聴くと、バッハという作曲家が突発的な現象でなく、バロック音楽の広大な大河の流れの中ではなくまれた存在であることが、よくわかるはずです。そして最後に、前述した西山まりえの演奏の魅力が、おそらく全開で発揮されるだろう、スペイン人ソレルの「ファンダンゴ」。「聴くフラメンコ」といべきこの熱狂的な作品で、演奏会は幕を閉じます。夏の夜、ホールを後にする皆様の足どりは、ステップを踏みたくくなるようなAnimation(活気)に満ちていることでしょう。 《矢澤》



写真左:浅井美紀  
右:初見宗郷

## 楽器の王様パイプオルガンで遊んじゃおう! 8 / 27(月)親子のためのパイプオルガン見学会

楽器の王様とも呼ばれ、何千本ものパイプが並べられ、何十種類もの音色が作り出される、機械仕掛けの壮大な楽器が、パイプオルガンです。その響は、光のシャワーのように頭上から降り注ぎ、ホール中を包み込んでいきます。さて、この夏に、水戸芸術館のエントランスホールに設置されている巨大なパイプオルガンを、間近に見て、聴いて、触って、お楽しみいただく、親子のための見学会を開催します。お話しと演奏は、オルガニストの浅井美紀さん。浅井さんは、水戸市内の幼稚園、保育所、保育園の子供たちが毎年1,000人以上参加している「幼児のためのパイプオルガン見学会」の講師を2003年から務めています。浅井さんの温かな人柄がにじみ出した楽しいトークと流麗な演奏で、見学会は大好評をいただいています。今回はこのオルガン見学会をさらにグレードアップさせた内容で、皆さんのご参加をお待ちしています。オルガンってどんな楽器?

普段、私たちはオルガンを正面から、しかも、その外観しか見ることができません。そこで今回は、

この楽器の隠された内部を大公開します!!そこで、あなたは信じられない光景を目にする!!...かどうかは来てのお楽しみ!さらに、オルガンの音の出る仕組みや、沢山の音色はどのように作られているのかなどのお話しを通して、オルガン物知り博士になろう!

オルガンの演奏を聴いてみよう!

もちろん、オルガンの魅力を味わっていただくために、浅井さんが色々なオルガン作品を演奏します。普段の演奏会では聴けないような、スペシャルな演出や選曲もありますので、お楽しみに!

オルガンに触ってみよう!

今回の見学会の最大の楽しみとも言えそうなのが、実際に鍵盤に触って音を出していただく体験コーナーです。ピアノなどの鍵盤楽器を弾いたことも、触ったこともないという方でもご遠慮は無用です。どうぞ自由に大オルガンの音を鳴らしてみてください。また、さまざまな形状、素材のパイプの実物を手にとって吹いていただくコーナーも予定しています。

楽しさ倍増のプロムナード・コンサート

オルガン見学会の前日には、浅井美紀さんが出演するプロムナード・コンサートの夏休みスペシャルを開催します(8月26日[日]1回目:12:00~2回目:13:30~\*各回30分程度、入場無料)。映画『スーパーマン リターンズ』のテーマ曲や世界中で愛好されているオルガン曲・J.S.バッハの「小フーガ BWV578」など、小さなお子さんから大人までご家族皆さんで楽しめるスペシャル・プログラムをご用意しております。これを聴いたら翌日のオルガン見学会の楽しさが、倍増すること間違いなし!プレ・イヴェントとして、こちらも是非、ご来場ください。 《中村》

### 親子のためのパイプオルガン見学会 参加者募集

開催日:8月27日(月)13:30~14:30(開場13:15)  
定員:100名 / 対象:5歳以上 / 参加料:1人500円  
申込締切:7月14日(土)\*応募多数の場合は抽選  
応募方法:住所・氏名・参加人数を明記し、往復はがきを下記までお送り下さい。  
宛先:〒310-0063水戸市五軒町1-6-8  
「水戸芸術館音楽部門オルガン見学会係」

## SELF

ひたちなか市在住の尺八奏者・初見宗郷が誘う幽玄な邦楽の世界。

### 7 / 29(日) 初見宗郷 尺八リサイタル 尺八禅ノ崇高ナル風韻ヲ求メテ...

尺八は、竹に穴を五つ開けただけの素朴な楽器です。そして、吹奏者の個性がはっきり出るとともに、修練により一音成仏の世界が繰り広げられます。それ故に、音色の多面性・無限への広がりがあり、私もそれを求めて45年が過ぎました。

私は父が尺八を教えていた関係で、10歳の頃から遊び半分ではありましたが、それとなく尺八に親しんできました。そして、学生時代には私にとって尺八はかけがえの無いものになっていました。会社に就職した後のどんなに忙しい時にも、睡眠

時間を尺八の稽古にまわし、常に挑戦する気概で努力してきたつもりです。しかし、尺八に夢中になればなるほど、尺八の音色の限りない奥深さを感じ悩み続けてきました。また、時間が限られておりましたので、いつかきっと、何の制限も無くほとんど尺八に接してみたいものだと思っていました。そんな願いが叶ってか、昨年の7月に、定年まで3年残して長年勤めてきました会社を退職することができ、このたび水戸芸術館においてリサイタルを開催できる運びとなりました。これまで人生の友にできた尺八と、尺八を通して巡り会えた多くの方々へ感謝しつつ、今までの私の尺八楽を総括し、新たな世界を築く第一歩として、今回のリサイタルを企画しました。

今回、日本芸術院賞など数多くの賞を受賞されています川瀬白秋先生(胡弓・唄・三絃)をはじめとし、福田佑子(唄)・中井智弥(箏)・小林久子(箏)・前田文子(17絃)・大須賀佳緒里(唄・箏)・山崎扇秋先生(箏)X出演順という素晴らしい

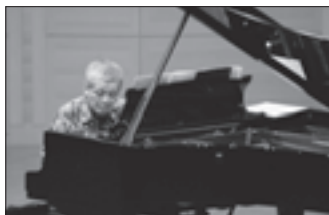
先生方に賛助出演をお願いしました。演奏曲は、江戸時代に作られた琴古流本曲「鹿の遠音」、地唄曲「八重衣」の古典物や、山本邦山先生作曲の「舌越」、宮田耕八朗先生作曲の「海の青さ」などの現代曲、そして新内水戸二上りや中田博之先生作曲「秋篠寺」の唄物など、バリエーションに富んだ内容となっています。特に、「鹿の遠音」は本来二本の尺八で演奏しますが、今回は白秋先生に胡弓の手付けをお願いし胡弓と合奏します。また、水戸二上りは、数年前に福田佑子先生の委嘱により、箏曲家の小林久子先生とともに、三味線に代わって箏と尺八の伴奏を手付けしたものです。

永遠なるテーマ「尺八禅ノ崇高ナル風韻ヲ求メテ...」を模索し、尺八の理想とする竹籟(竹林の中を風が吹きぬける音)と、胡弓・箏・三絃などとの織りなす幽玄な世界をご来場の皆様存分に味わっていただければと願っています。

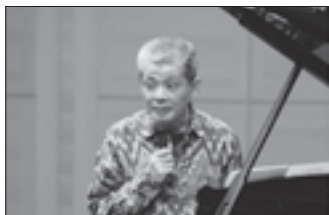
初見宗郷

## 最近の公演から

APRIL  
MAY



1



2



3



4



5



6



7



8

高橋悠治ピアノ・リサイタル(4月21日)&  
関連企画・映画『アンナ・マグダレーナ・パ  
ッハの日記』上映(4月8日)

シリーズ『BACHのための4人』の第1回として  
登場したのは、孤高の作曲家・ピアニスト、高橋悠  
治。「その1・Bravery(勇氣)」のタイトルにふさわし  
く、バッハを触媒に聴き手の意識を未知の領域に  
導くプログラム。ハウアーの浮遊する思索(ヘルダ  
ーリンの言葉の朗読つき)で会場の空気を変え、  
新作 アフロアジア的バッハ でバッハをヨーロッパ  
の外にむけ開放する。最後のバッハ パルティータ  
第6番 の、かつて聴いたことのない自由で大胆  
な音の戯れ。アンコールは フーガの技法 から2  
曲。サイン会に長蛇の列で並ぶ聴衆の方々は、パ  
ッハという窓の「外」をのぞいた興奮冷めやらぬ  
面持ちだった。4月25日付朝日新聞文化面では今  
福龍太氏が絶賛の評。また、これに先立つ4月8  
日、ACM劇場にて映画『アンナ・マグダレーナ・パ  
ッハの日記』を上映。禁欲的な美学に貫かれた伝  
説的な傑作だが、こちらも客席の集中力は高く、終  
演後には涙する方もいた。中でも印象的な、長大  
なご感想をブログにアップしたので、[http://www.  
arttowermito.or.jp/blog/yazawa/](http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/) 4月10日の日記を  
ご覧下さい。《矢澤》アンケートから 抒情に満ち  
た素敵な素晴らしい音楽でした。超絶技巧のいる  
高橋さんのピアノにブラボー(無記名の方) 独自  
の世界で、すばらしく美しかった。感動した(習志  
野市:Y.O.さん) バッハの演奏がJAZZYで面白  
かった(無記名の方) ハウアーは初めて耳にし  
たが、詩的な曲で新鮮だった。アフロアジア的パ  
ッハは新しい価値観にふれられた。パルティータ  
は独特のリズム感があった。(水戸市:K.U.さん)

高山三智子 ピアノ・リサイタル(4月26日)

茨城の演奏家による演奏会企画として開催され  
た高山三智子氏のリサイタル。ベートーヴェンの  
熱情 ソナタに始まり、ドビュッシーの 月の光、  
シューマンの トロイメライ、ショパンの 別れの  
曲 など、広く知られている名曲の数々が凝縮され  
た意欲的なプログラムが組まれた。また、高山  
氏が得意とするロシア作品から今回は、スクリャ  
ーピンの ピアノ・ソナタ 第2番 が披露された。全  
身全霊をかけて打ち込む高山さんのピアノ演奏に  
は、聴衆の心を震わせる熱い情熱が宿っているよ  
うに思われる。アンコールはショパンの ノクターン  
第2番 作品9の2 と 幻想即興曲 作品66 《中  
村》アンケートから 心地よく聴かせていただきま  
した。次回も来たいと思います。(東茨城郡:K.E.  
さん) 思いが伝わる演奏でした。熊蜂の飛行  
では新たな感動を覚えました。こんな繊細な表現  
のピアノを聞いたことがなかったように思います。  
(水戸市の方)

「茨城の名手・名歌手たち 第18回」

出演者オーディション(5月6日)

9月8日(土)の「茨城の名手・名歌手たち 第18  
回」演奏会に先立ち開催された、出演者オーデ

ィション。厳正なる審査により6人と1組が合格し、  
演奏会への出演を決めました。オーディションの  
概要は下記の通りです。《関根》

応募総数58

管楽器18 / 打楽器1 / 声楽32 / 器楽アンサンブ  
ル7

合格者(受験番号順)

大山真理佳(フルート)、桑名奈津子(フルート)、  
菅田真文(チューバ)、財木麗子(ソプラノ)、  
大木 円(メゾ・ソプラノ)、小橋琢水(バリトン)、  
Duo La Bilancia(2台ピアノ)

審査委員(敬称略・五十音順)

池辺晋一郎、梶原征剛、工藤重典、中澤敏子、  
畑中良輔(審査委員長)、松本美和子、  
間宮芳生、若杉 弘

『ブレーズの肖像』関連企画

ミハエル・ヘフリガー講演会

[共催:水戸芸術館友の会] 5月18日

9月14日に開催する現代音楽の巨匠・ピエ  
ール・ブレーズを特集する『ブレーズの肖像』公  
演の関連企画として開催された講演会。ブレー  
ズ氏は、9月の水戸公演の器楽奏者として、現在、  
同氏が後進の育成のために心血を注いでいる、  
スイスのルツェルン国際音楽祭の中で実施してい  
る、ブレーズ・アカデミーに参加する若く優秀な音  
楽家たちを推薦してきた。ブレーズ・アカデミーで  
は、オーディションに合格したおよそ30にも及ぶ国  
の若者たちが、毎年8～9月にかけての3週間、  
現代作品の演奏の研鑽を積んでいる。水戸公演  
には15名の精鋭たちが参加する。今回の水戸公  
演は、ブレーズ・アカデミーの初来日公演でもあり、  
アカデミーとしても非常に大きな意義を感じている  
ようだ。そのことを裏づけるかのように、今回ルツ  
ェルン国際音楽祭の芸術総監督のミハエル・ヘ  
フリガー氏とアカデミーの事務局長のカテリーナ・レ  
ンガー氏が水戸芸術館を訪問し、講演会を実施し  
た。ヘフリガー氏からはアカデミーの成り立ちやそ  
の目的について、レンガー氏からはルツェルン滞  
在中の参加者たちの様子などが語られた。ブレー  
ズ自身が徹底的に指導し、その演奏の質を保証す  
る、この秋水戸でしか聴けない大注目の演奏会。  
現代音楽なんてと尻込みせず、とにかく  
体験してみたい!!! 《中村》

高校生音楽講座in水戸芸術館2007

第1回(4月19日)&第2回(5月31日)

今年から始まった高校生音楽講座。1回目は  
「演奏の違い」、2回目は「指揮者とは何か」をテー  
マにレクチャー。嬉しいことに両方とも定員を上回  
る約40名が応募、コンサートホールの舞台上で熱気  
あふれる高校生の瞳が輝いていました。講座の様  
子は <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/> の  
「高校生音楽講座2007」の項目をどうぞ。3回目は  
7月26日で音楽の「ジャンル」について。6月8日  
現在まだ若干空きあり、お問い合わせは担当矢  
澤&中崎(TEL 029-227-8118)まで! 《矢澤》

1～2. 高橋悠治ピアノ・リサイタル 3～4. 高山三智子ピアノ・リサイタル

5～6. 「茨城の名手・名歌手たち 第18回」出演者オーディション 7～8. ミハエル・ヘフリガー講演会

## 水戸芸術館館長 吉田秀和氏、第16代水戸市長 佐川一信氏に 水戸市名誉市民の称号贈呈。

平成18年12月の水戸市定例市議会において、お2人に水戸市名誉市民の称号を贈ることを全会一致で決定し、5月30日水戸芸術館で贈呈式が行われました。吉田館長は、民間人としては初めての受称となります。



吉田秀和 水戸芸術館館長は、広い視野から音楽をはじめ芸術分野全般にわたり美しい文章で論じ、日本にはじめて音楽評論、芸術批評の世界を確立し、先導的役割を果たして来られました。また「子供のための音楽教室」(後の桐朋学園大学)、「二十世紀音楽研究所」を設立するなど、音楽家の育成や現代音楽の普及にも尽力。昨秋、これら芸術文化への諸功績により文化勲章を受章されました。

吉田館長が率いる水戸芸術館は、平成2年の開館以来、水戸室内管弦楽団をはじめとするその独創的な活動によって、日本にとどまらず、世界的にも高く評価され、文化都市・水戸の名を広めるものとなっています。これまで芸術館の運営の中心的役割を担ってきて下さった吉田館長の受称を心からお祝い申し上げます。



佐川一信 元水戸市長は、昭和59年に第16代市長に初当選。市民の意思と力で自らのまちをつくるという「市民からの出発」を原点として、3期9年間にわたり積極的に市政運営に当たってきました。昭和61年に「日本一の文化都市」を目指して「第3次総合計画」を策定。千波湖浄化、図書館整備、水戸駅北口の再開発など後世に残る数多くの事業を展開しました。

市制100周年の記念事業として水戸芸術館を建設し、芸術館運営の鍵は「人」にあるとの信念のもと、吉田秀和氏を館長に迎え、指揮者の小澤征爾氏をはじめ、わが国随一の芸術家集団を擁する運営組織を確立。これまでの日本の文化施設にはなかった、画期的な運営手法を取り入れました。水戸芸術館の礎を築きながらも平成7年に他界された佐川元市長に、心からの敬意と祝意を捧げます。

### 【速報】

MCOモーツァルト・シリーズCD 第2弾が発売

3月21日に発売され、大好評を博している小澤征爾&MCO モーツァルト・シリーズ第1弾(交響曲第40番と協奏交響曲のカップリング)に引き続き、その第2弾がソニー・ミュージックジャパンインターナショナルより7月18日に発売予定。どうぞお楽しみに。

小澤征爾&水戸室内管弦楽団 モーツァルト・シリーズ第2弾

モーツァルト:交響曲 第36番 八長調 K.425 リンツ

交響曲 第38番 二長調 K.504 プラハ

モテット 踊れ、喜べ、幸いなる魂よ K.165 \*

小澤征爾指揮 水戸室内管弦楽団 ソプラノ:森 麻季 \*

録音:2004年12月(K.425) 2005年7月(K.504) 2003年2月(K.165) ライヴ  
SA-CDハイブリッド SICC10047 3,045円

## information

### チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000

営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

### 公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸「芸術よもやま話」金曜日18:15頃~15分ほど。水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」毎週水曜日・朝6:50頃から約10分間 水戸周辺1197KHz、土浦周辺1458KHz

### 「水戸の街に響け! 300人の《第九》」コーラス参加者募集

水戸芸術館では昨年に引き続き、「水戸の街に響け! 300人の《第九》」を開催するにあたり、一般公募によるコーラス参加者を募集いたします(未経験可)。詳しくは、応募要項をご覧ください。

公演日時:2007年12月16日(日)12:00開演・13:30開演(2回の公演)

応募受付期間:2007年7月20日(金)~8月5日(日) 当日必着

応募要項請求方法: 水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター(9:30-18:00 月曜休館)にて直接入手 80円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛て郵送

お問い合わせ:水戸芸術館音楽部門《第九》係(担当:関根・中崎)

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8118 / FAX 029-227-8130

### チケット・インフォメーション 6月30日(土)発売分

BACHのための4人 その3・Clarity(明晰さ)

ミリアム・コンツェン 無伴奏ヴァイオリン・リサイタル

9/28(金)18:30開演 料金(全席指定):¥3,000

マリオ・ブルネロ 無伴奏チェロ・リサイタルとのセット券:¥6,000

BACHのための4人 その4・Heart(心)

マリオ・ブルネロ 無伴奏チェロ・リサイタル

10/6(土)18:30開演 料金(全席指定):¥4,000

ミリアム・コンツェン 無伴奏ヴァイオリン・リサイタルとのセット券:¥6,000

BACHのための4人 関連企画

映画『ロストロポーヴィチ 人生の祭典』

会場:水戸芸術館ACM劇場 9/20(木)19:00~

料金(全席自由):¥1,200(ミリアム・コンツェンもしくはマリオ・ブルネロのチケットと一緒に購入すれば¥200引き)

ATMアンサンブル第22回演奏会

10/16(火)19:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000

ATMアンサンブル第22回演奏会には、6月26日(火)より友の会維持会員、6月27日(水)より友の会一般会員の先行電話予約がありますので、6月30日(土)の一般発売の時点で券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承下さい。

### 7月1日(日)発売分

茨城の名手・名歌手たち 第18回

9/8(土)18:30開演 料金(全席自由):¥1,500

あひる会合唱団 9/23(日)14:00開演

料金(全席自由):一般¥1,500 高校生以下¥700

山口泉恵・弘中孝 ピアノ・デュオ・リサイタル

10/8(月・祝)14:30開演 料金(全席自由):¥3,000

班目加奈トランペット・リサイタル 10/28(日)15:00開演

料金(全席自由):[前売り]一般¥2,000 高校生以下¥1,000

[当日]一般¥2,500 高校生以下¥1,500

### これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

西山まりえ チェンバロ・リサイタル

7/14(土).....中央x・左右・裏

ミト・デラルコ 第10回演奏会

7/21(土).....中央・左右・裏

初見宗郷 尺八リサイタル 7/29(日).....自由席  
浜さ知らズオーケストラ[会場:水戸市民会館]

8/10(金).....

ピエール・ブレーズの肖像 9/14(金).....中央・左右・裏  
6/7(木)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な7月のスケジュール

### コンサートホールATM

BACHのための4人 その2・Animation(活気)

西山まりえ チェンバロ・リサイタル

7/14(土)18:30開演 料金(全席指定):¥2,500

ミト・デラルコ 第10回演奏会

7/21(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

高校生音楽講座

第3回「クラシック、ロック、ジャズ...音楽のジャンルについて考えてみよう」

7/26(木)17:00~19:00 参加費:1回券¥200

初見宗郷 尺八リサイタル

7/29(日)15:00開演 料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,000

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート

7/8(日)12:00/13:30 7/28(土)13:30/15:00

ヴァリエーションズ

(茨城県内の演奏家による、さまざまな器楽や声楽が登場するシリーズです。)

7/7(土)13:30/15:00 ハープ:宮田悠貴

入場無料 演奏は各回20分程度です。

エントランスで踊ってみる25 『男と女』 7/28(土)13:00/15:30 入場無料

### ACM劇場

40周年記念水戸市芸術祭 パレエフェスティバル

7/1(日) 料金(全席指定):各¥500

瑞穂パレエ教室 14:00開演 シオンパレエ 16:00開演

劇団ダンダンブエノ『砂利』

7/8(日)16:00開演 料金(全席指定):A席¥5,500 B席¥3,500

40周年記念水戸市芸術祭 三曲各流演奏会 7/22(日)13:00開演 入場無料

子供のためのシェイクスピアカンパニー『夏の夜の夢』

7/25(水)19:00開演、7/26(木)14:00開演

料金(全席指定):[A席]大人¥3,000 子供(中学生以下)¥1,800

[B席]大人¥2,000 子供(中学生以下)¥1,200

### 現代美術センター

40周年記念水戸市芸術祭 いけばな展

6/29(金)~7/1(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

最終日は17:00閉場、入場は16:30まで 入場無料

40周年記念水戸市芸術祭 美術展覧会

第1期【日本画・洋画・彫刻・工芸美術】

7/8(日)~7/20(金)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日ただし7/16(月・祝)は開館、翌7/17(火)は休館。 入場無料

第2期【書・写真・デザイン・インスタレーション】

7/25(水)~8/5(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 入場無料

## 茨城の主な7月の演奏会

有料公演のみ

今号はページの都合により水戸市内および近隣の公演のみとさせていただきます。

佐川文庫 TEL / 029(309)5020

~若手ピアニストシリーズ~ 仲田みずほ ピアノ・リサイタル 7/7(土)18:00開演

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

オランダ国立歌劇場専属歌手HIROKO MOGAKI 茂垣裕子

メツォ・ソプラノリサイタル(問)秋山 TEL / 050(1382)4582

7/13(金)18:30開演

村上静枝 ソプラノ・リサイタル 7/28(土)18:30開演

(問)吉池 TEL / 029(350)5548

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

~子どものためのプロムナード・コンサート~「いわさきちひろと吉田恭子の世界」

7/21(土)14:00開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2007年7月発行 第126号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...ブレーズ徹底研究!そして、  
またしても夏の市民会館がたいへんなことに!